

農空間

第 7 2 号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課

【特集】農地耕作条件改善事業の取組について

今回の特集は、地域の実情に応じた、きめ細やかな農地・農業用施設の整備等が可能なる「農地耕作条件改善事業」の紹介です。

本事業は、担い手への農地集積の加速化や農業の高付加価値化の推進等により、競争力ある「攻めの農業」を展開し、意欲ある農業者が農業を持続できる環境を整えることが大きな目的であり、暗渠排水や区画の拡大、農業用施設や農作業道の整備など多岐に渡るメニューが国費補助により実施できることが特徴です。

また、地区採択にあたり受益面積の要件がないため、小規模な施設の補修・更新などの実施に加え、農地集積を図りつつ高収益作物への転換を図る場合、計画策定から営農定着まで必要な取組を一括して支援することが可能です。

これまでに、土水路へのU字溝の設置や既存水路の補修、農家の直営施工による暗渠排水などの工事を本事業で実施しています。

小規模な施設整備、暗渠排水や耕作放棄地の解消・発生防止のための整備、高収益作物転換の導入を図るための市場調査や経営展開支援など、これまでの事業では対応できなかった取組を考えている農家の方や農業法人の皆様、ぜひ本事業をご活用ください。

【農村振興課】

高収益作物（野菜、果物など）への転換を考える方へ！！

農地中間管理事業の重点実施区域等において、

基盤整備だけでなく

高収益作物の導入に必要な取組を一括支援します！

導入計画の策定 導入作物の選定、販路の検討など	基盤の整備 導入作物に適した耕作条件の改善	栽培方法の確立 営農実証、栽培技術習得、市場調査	導入・定着 新たな作物、農業機械の導入など
			
検討会の様子	暗渠排水	現場での講習・研修会	高収益作物の導入（タマネギの収穫）

【事業の採択要件】

- 総事業費200万円以上
 - 受益者数2者以上
 - 農地中間管理事業の重点実施区域または指定見込み区域
 - 高収益作物転換・導入等の支援を活用する場合、作付面積のうち1/4以上を稲作等から新たに高収益作物に転換
- 【補助率】
- 定率補助（水路等整備） 事業費の50～55%
 - 定額補助（暗渠排水等） 定額（標準的な工事費の1/2）
- ◇暗渠排水（7.5～15万円/10a）
◇排水路更新（14.5万円/10m）◇区画拡大（3～12.5万円/10a）
◇高収益作物転換推進費（300～500万円/1地区）等

【事業主体】市町村、土地改良区、農業法人等

県内からの便り

サンシャインいわき
笑顔あふれる農林業を目指して！

いわき農林事務所

当事務所管内において、東日本大震災により津波被害の受けた農地は、除塩作業の実施後、平成24年度までに作付を再開しましたが、ほ場の大区画化や担い手農家への農用地利用集積により農村地域の復興を図ることを目的に、東日本大震災復興交付金を活用して3地区

- 下仁井田地区（四倉町）
- 錦・関田地区（錦町、勿来町）
- 夏井地区（平）

において約253haのほ場整備を進めています。
平成29年春までに約253haの206haで順次営農を再開しており、平成30年の春には計画の1年前倒しですべての農地で、営農が再開できるような工事を行っています。併せて、東日本大震災による約50cmの地盤沈下に伴う農地の湛水被害を軽減するため、排水電動ポンプの整備も行っており、ほ場整備と同様に計画の1年前倒しで平成30年度中にはすべての排水電動ポンプが稼働する予定です。

今年度には、前述の3地区以外のほ場整備事業で、大野第二地区（21.4ha）、大久地区（81.8ha）の2地区が完了予定で、今後も新規地区の申請が計画されていることもあり、いわきの農林業の益々の発展が期待されています。

【農村整備部】

【大野第二地区（四倉町）】



田んぼアート



稲掛け中の夜間ライトアップ



【ほ場整備後】下仁井田地区（40.4ha）の作付状況

地域に根ざした

水土里ネット

県南

「田畑を潤す犬神ダムを管理し支える土地改良区」



社川沿岸土地改良区

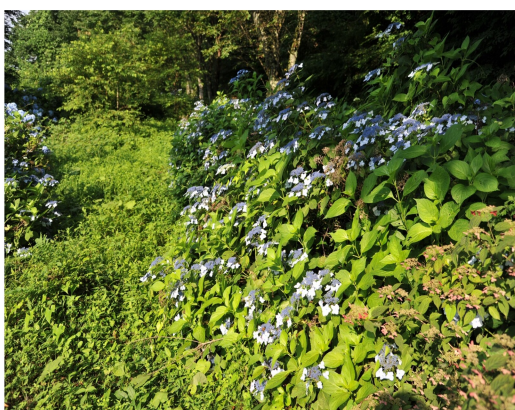
阿武隈川水系社川（やしろがわ）の中流域に沿った水田を灌漑（かんがい）するために昭和46年度に県営かんがい排水事業によって造成された、犬神ダム及び南湖を主水源として管理している土地改良区が「社川沿岸土地改良区」です。ダムが完成するまでは、用水確保に苦労した地区が多く、水を引くために、一晩中田んぼで水番をしていたという話を聞きました。ダムが出来た今でも春の需要期に晴天が続くと不自由する地区もあります。

平成23年3月11日の東日本大震災発生時満水だった犬神ダムは、満杯に入ったコップを揺らした時の様で、余水吐から濁った水が波立って流れ出た様子を、今も忘れる事は出来ません。その後の余震の度に、夜中や1日に2回ダム点検を行うこともありましたが、また、同じ年の6月には、1cm角ほどの雹が降り、ダムのかげの草の葉が殆ど落ちて無くなる程でした。震災後であつたことから、これからの良からぬ事が続かないか心配したものでした。それから6年が過

ぎて、現在は通常の管理が主ですが、施設の補修が必要な箇所が増えているので、どの様にするか今後の課題となっています。

明るい話題は「ともに育むうつくしま里づくり事業」を利用して平成17、18年に植えたあじさいの株が大きくなり、開花の時期には青色が多いですが、数種類咲いています。PRしてないので来訪者は少ない様です（笑）。それから、地元の方が密かに植えたモミジも所々にあり、徐々に大きくなって秋の紅葉を彩ってきています。今流行の「ダムカード」や、何のおもてなしもございませんが、県立公園の「南湖」へお寄りの際は、「犬神ダム」まで足を伸ばして頂けたら幸いです。

【社川沿岸土地改良区】



あじさいの株が大きくなりました



犬神ダムからの風景

福耕支援隊情報



相双農林事務所農村整備第一課で災害復旧業務にあたっている福耕支援隊職員を紹介します。

当課では、被災した海岸の復旧工事や津波被災からの復興を支援する現場整備を行っており、支援隊員の協力を得ながら復旧工事設計や監督監理に取り組んでいます。

今シーズンは、度重なる台風の影響により波浪や強風に見舞われて工事が中断することが多く、工期内の完成を目指した綿密な工程管理が要求されています。

このような自然環境の制約が厳しい現場において、滋賀県の中尾主任主査をはじめ、佐藤主査(秋田県)、大石副主査(神奈川県)の3名が昼夜を問わず相双地方の復旧復興に取り組んでいます。



海岸工事で現地研修会を開催している大石副主査

農村整備第二課北部農地担当では、主に南相馬市北部の農地復旧を担当しています。業務内容は被災した農地の復旧や今後の営農の効率化を図った現場整備を行っています。

北部農地担当では、今年度は5名の福耕支援隊の応援をいただき、日々の業務に励んで頂いております。

ここで5名からのメッセージをご紹介します。

【青森県 神保利幸 主査】

4月に着任し早8ヶ月がたちました。10月にはJR常磐線(富岡―竜田)間が再開となり、また一步、復興完了に近づいている実感を持つことが出来ました。7年にわたり尽力された先輩諸氏の思いを、駅伝のように、次に手渡すことに全力を尽くしたいと思えます。

【新潟県 本間幹朗 主査】

福島県に赴任した当時、復興県にまたがる大規模災害のため、多くの農地が作付けできず、数年を要した今も未だ復興工事の道半ばといった状態に、衝撃を受けたことを記憶しています。風土も違えば、計画設計思想、事業の進め方も異なるため、戸惑いながらも、いかに早く、より良い仕事ができるか、自身の県であれば、どう進めたら良かったのか、日々自問自答しながら進めています。残された派遣期間の中で力を尽くし、次の担当の方へつなぎ、一日でも早い復興を願っております。

【栃木県 村上修一 主任主査】

栃木から着任し、浜通りの風を感じながら日々過ごしています。仕事では、農地災害復旧工事を担当させていただいており、1枚あたり1〜3haの水田復旧で充実感を覚えながら業務を行っています。残りの期間、ふくしまの復興のために頑張ります！おまけに着任以降の体重減量6キロ経過！ふくしまで健康も得たいと思っています。

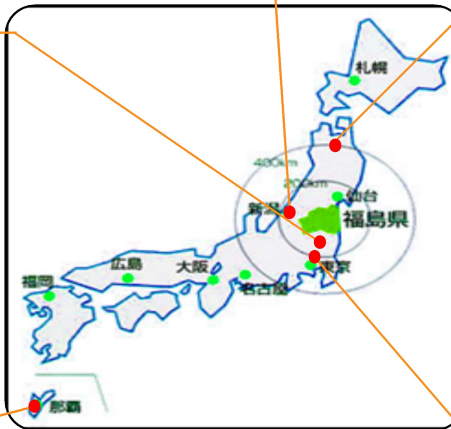
【埼玉県 君嶋克一 副主査】

この4月から2年目を迎えることとなりました。昨年同様、農村整備第二課北部農地担当でお世話になっています。今年度は福島県だけでなく東北地方の他県まで足を延ばしました。被災地の様子もだいぶ様変わりし、復興完了の兆しが見えてきている様に感じます。

今年度も残りわずかとなりましたが福島県の復興のため頑張りたいと思います。



打合せ中の君嶋副主査



配水管工を確認する本間主査



神保主査

村上主任主査

田原迫技師

沖縄パイナップル

【沖縄県 田原迫健二 技師】

4月から派遣されており、沖縄県の田原迫です。支援のバトンを引き継ぎ早8ヶ月が経ちました。近頃は日に日に寒くなり、冬を越せるか不安を感じております。

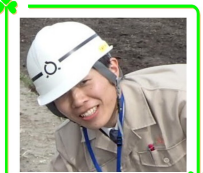
力不足を感じる毎日ですが、少しでも復興の力となれるよう残り期間も尽力して参りますのでよろしくお願い致します。

新規採用職員の紹介

農業土木職員の一員です！



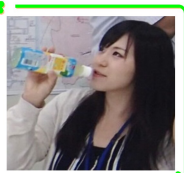
- ① 相双農林事務所 農村整備第二課 小川 悠
- ② 郡山市 システム学科
- ③ 環境
- ④ みなさんはじめまして！相双農林事務所の小川です。よろしくお願ひします。



私が福島県職員を志したきっかけは、東日本大震災でした。当時高校生だった私は、何もできずにもどかしかったことを思い出します。福島県の農業を支え、未来ある福島を創りたいと考え、大学では農業土木を専攻しました。

私の担当は、八沢地区のほ場整備です。八沢地区では、面整備の他、パイプライン整備や貯水池の造成など様々なことを行っています。これからも向上心を忘れず、多くのことを吸収し、八沢地区の力になります。

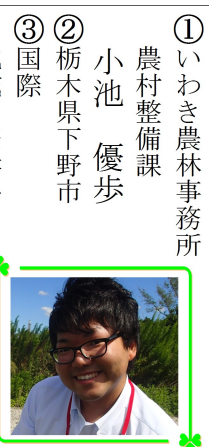
- ① 相双農林事務所 農村整備第二課 北嶋 美子
- ② 秋田県八郎潟町 アグリ
- ③ ビジネス学科
- ④ 相双農林事務所の北嶋です。本職を志望した動機は、福島県の文化や風土の豊かさ、素敵な県民性に魅力を感じ、福島のために何かしたいという思いが強くなったからです。



業務は、復興基盤総合整備事業真野地区を担当しています。毎日覚える事はたくさんありますが、現場が少しずつ出来ていく姿を見ると嬉しくなります。

目まぐるしい日々を送っていますが焦らずに一つ一つしっかり吸収して頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

- ① 所属・氏名
- ② 出身地
- ③ 学生時代の専攻
- ④ 志望動機・担当業務・抱負



① いわき農林事務所 農村整備課 小池 優歩

② 栃木県下野市

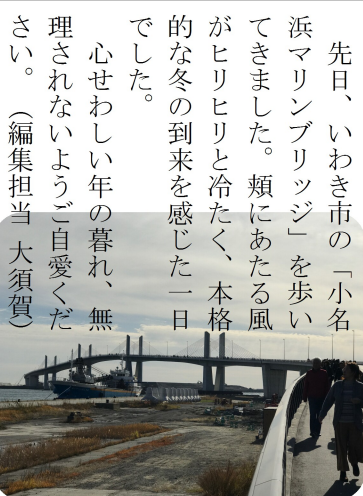
③ 国際 地域開発学科

④ 大学時代に農業や土、水について学んでいたため、勉強したことを活かしたいと思い本職を志望しました。出身の栃木には海がないため、幼い頃から海水浴にきたり、アンモナイトセンターの化石発掘によく遊びにきていました。現在、そんな思い出深い、いわきで仕事が出来ることがとてもうれしく思っています。

担当は、農道整備で復興再生基盤整備事業釜ノ前3期地区に関するのと、水土里を育む普及促進事業を実施させていただいています。

まだまだ未熟ですが、毎日少しずつわからない事をなくしていき、一日でも早く先輩方に追いつきたいと思っています。

編集後記



先日、いわき市の「小名浜マリブリッジ」を歩いてきました。頬にあたる風がヒリヒリと冷たく、本格的な冬の到来を感じた一日でした。

心せわしい年の暮れ、無理されないようご自愛ください。(編集担当 大須賀)

『農空間』とは・・・農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間の事です。